

中間まとめに対する市民からの意見（分野別）（総数：33通102件）

分野	主な意見内容
環境教育・情報提供 （14件）	小学校を（環境教育や資源回収などの拠点となる）「エコステーション」として位置付ける枠組みの構築を要請する。など
分別収集 （10件）	分別収集を徹底させるべき。今のままで大きなごみ袋の中に何でも放り込んで捨てている限りは、ごみは減らないと思う。など
経済的手法 （10件）	家庭ごみについて、分別マナーを徹底し有料化に移行することに賛成。など
取組の協働 （7件）	京都市ごみ減量推進会議を、新計画の行動主体に位置付けることを要請する。など
生ごみ再資源化 （7件）	「中型・コミュニティ型生ごみの堆肥化システムの開発促進」を答申に盛り込んでほしい。など
再使用 （6件）	リサイクルには多額の税金と多くのエネルギーが必要であり、CO2排出量にも問題が生じるので、びんもペットボトルもリユースにすべき。など
目標の設定 （5件）	目標数値は非常に重要なものとなるので、再びパブリックコメント等にかけることを要望する。など
中間まとめ全体 （4件）	市民に対しては、ごみの将来的な問題が見えない中で判断しにくいと思うので、せめて意見募集にかける資料としては、背景情報も含めたらよかったと思う。など
指定袋制 （4件）	ごみを出す場合には、環境にやさしい指定袋に切り替えるべき。など
現行計画の総括 （3件）	今回の中間まとめでは、これまでのごみ減量等の諸計画についての達成度を踏まえた現状分析が十分されているとは言えない。など
過剰包装の削減 （3件）	製造者に対して、より強力な法的措置で制限する必要があると思う。など
事業系ごみ （2件）	事業系ごみ収集・管理については、基本的には排出者責任を明確にし、場合によってはペナルティを課すことも含めた対策を取ってもらいたい。など
計画策定プロセスにおける市民参加 （2件）	市職員が各地（自治会、商業組合の会合等）を回って説明会を開催する必要があると思われる。など
祭など催し物のエコ化 （1件）	お祭/イベントのごみ減らし・環境対策促進のための具体的な施策を新計画に盛り込んでほしい。
その他 （24件）	ごみの処理事業としては、京都市は毎年数百億円もかけていることと思う。このごみを将来にわたって減らしていこうというのだから、発生抑制の推進のために十分なお金をかけても見合うものだと思う。など

（意見発表者7名（+当日欠席者3名），会場からの発表者4名）

### 【意見発表】

#### 1．地域コミュニティを主体とする生ごみリサイクルの仕組みづくり

- ・小学校や大学と連携して，生ごみから作る堆肥を活用したり，地域で堆肥を利用した寄せ植え教室を開催したりするなど，地域コミュニティ型の生ごみリサイクルに取り組んでいる。このような，地域における取組に対する京都市の応援を期待する。

#### 2．ごみ分別収集・リサイクル

- ・京都市に対しては，集積場でのカラス対策を要望する。
- ・他都市からの移住者からは，京都市のごみ分別が非常に粗いという声が聞かれるため，その点についても検討してほしい。

#### 3．環境教育と学習による市民実践

- ・環境家計簿をつける，生ごみの重量を計測するなど，各家庭での行動の実践が減量化意識の向上に繋がると思う。
- ・今回の中間まとめは素晴らしいと思うが，本当に実施されなければ意味がないと言える。我々も中間まとめの内容を踏まえ今後も取り組んでいきたい。

#### 4．ごみの分別収集と減量化

- ・十分な分別をせずにごみを収集した後，処理の段階で多大な投資をしているというのは問題であると感じている。
- ・びんをびんとして再使用するため，色別収集を実施すべきである。
- ・生ごみリサイクルに対する補助金制度の復活を要望する。

#### 5．「子供が主役」のごみダイエット作戦

- ・京都市職員による小学校への出前型環境教育の実施を提案する。ひいては，それが子から親（家庭）への環境配慮意識の浸透に繋がるのではないかと。
- ・環境問題を環境学習の時間のみにとどめるのではなく，積極的にほかの科目にも取り入れるべき。
- ・子供を核とした環境学習を普及させ，小学校を環境ステーションと位置付けるような仕組みづくりを市に要望する。

#### 6．ごみの出し方の改善

- ・透明の指定袋製の導入を要望する。
- ・放置ゴミやポイ捨てごみについては，何らかの罰則が必要ではないかと考えており，市による検討を要望する。

## 7. 分別収集のあり方とびんの再使用

- ・ 中間まとめでは、リサイクルからリユースへの転換が見られ評価している。
- ・ パッカー車でびんを回収すると、割れてしまいリユースが不可能となる。せめて、びんだけでも別途収集し、京都市の税金を使わないルートを復活させることを願う。
- ・ リターナブルびんを購入することで、市民が何らかの得をするような仕組みづくりを期待する。

### 【会場からの意見・発表者による補足等】

- ・ コストばかりを優先してはいけぬ。今後は、コスト削減よりも、省エネルギーやごみ減量といった点をより重視していくべきである。
- ・ 京都市ではこれまでに何度か基本計画が策定されているが、その後のレビューがなされていないのではないか。
- ・ 市民と事業者の役割分担をシステムとして確立すべき。また、行政のリーダーシップを期待する。
- ・ 危険ごみ、中でも有害廃棄物の処理システムについては、行政と業界の連携が重要。
- ・ コストやアクセスを考慮して缶・びん・ペットボトルの3種混合を実施しているとの説明を市から受けているが、見直しを市へ要請する。
- ・ 自主的な取組を実施している地域は多数あるが、市民単位で自主的にできることには限りがある。行政による主導が必要。
- ・ 受益者負担という考え方にに基づき、家庭ごみの有料化を検討すべき。

### 【当日欠席された発表者の意見概要】

- ・ もう一度原点に立ち戻って考え直す必要がある。そこで初めて間違いに気付く。
- ・ 原点に戻るためには、他府県の事例をもっと的確に調査し、知ることが必要。
- ・ 廃食用油事業についても、しっかり組織づくりをして進めるべき。
- ・ 市民に対するごみ教育を活発化する。
- ・ クリーンセンターやリサイクルセンターへの見学を市民にもっとやらせよう。
- ・ 日本の過剰包装を見直してもらおう。
- ・ ごみ袋を有料化する。
- ・ 買い物袋等は自分のものを持参する。
- ・ 買い過ぎないように心がける。